

経済・金融フラッシュ

No.07-063 2007/08/31

雇用統計 07年7月～失業率の改善テンポ速まる

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

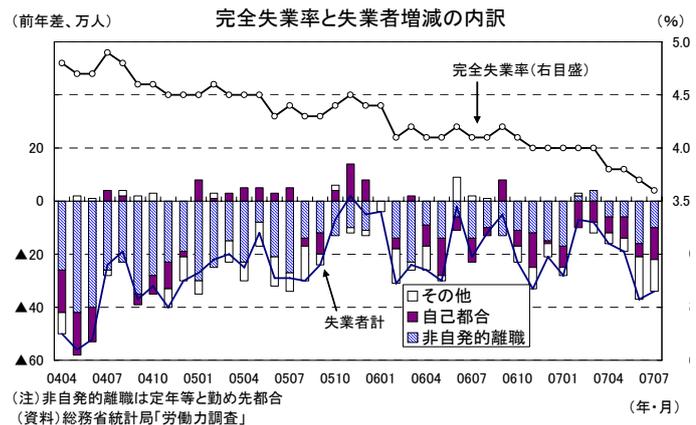
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 失業率の改善テンポ速まる

総務省が8月31日に公表した労働力調査によると、7月の完全失業率は前月から0.1ポイント低下し3.6%となった（ロイター事前予想：3.7%、当社予想も3.7%）。

失業率は2006年11月から2007年3月まで5ヵ月連続で4.0%となり、一時下げ渋りの動きも見られたが、4月に9年2ヵ月ぶりに3%台となってからは、改善テンポは速まっている。

失業者は前年に比べ34万人の減少となったが、その内訳を求職理由別に見ると、自己都合が91万人と前年に比べ12万人の減少、非自発的離職が74万人と前年に比べ10万人の減少、その他が52万人と前年に比べ12万人の減少となった。



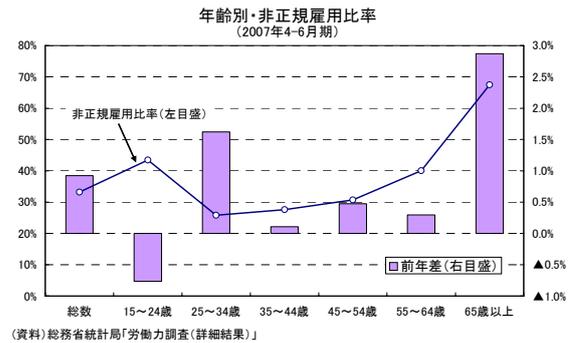
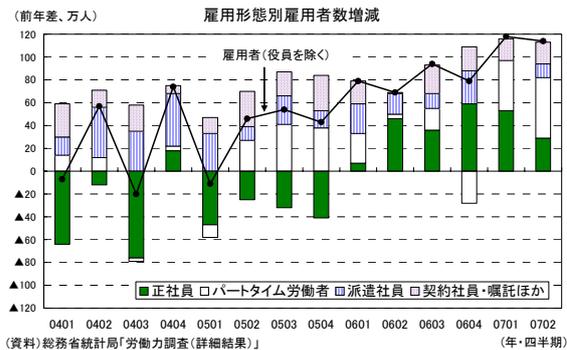
2. 非正規雇用比率は2四半期連続で上昇

07年7月分と同時に公表された、07年4-6月期の労働力調査詳細結果によると、正社員（正規の職員・従業員）は3483万人と、前年に比べ29万人の増加となり、6四半期連続の増加となったが、1-3月期の53万人増に比べると増加幅は縮小した。非正社員（非正規の職員・従業員）は1731万人と前年に比べ84万人の増加となり、1-3月期の63万人増から増加幅が拡大した。非正社員の中では、特にパートタイム労働者（1-3月期：前年差44万人→4-6月期：同53万人）、派遣社員の増加（1-3月期：前年差0万人→4-6月期：同12万人）が目立った。

非正規雇用比率（役員を除く雇用者に占める非正社員の割合）は33.2%と、前年に比べ+0.9ポイントと2四半期連続で上昇した。年齢別には、15～24歳の若年層、55歳以上の高

年齢層でその水準が高くなっているが、最近の動きを見ると、15～24歳の若年層だけが前年よりも低下しており、それ以外の層では上昇している。

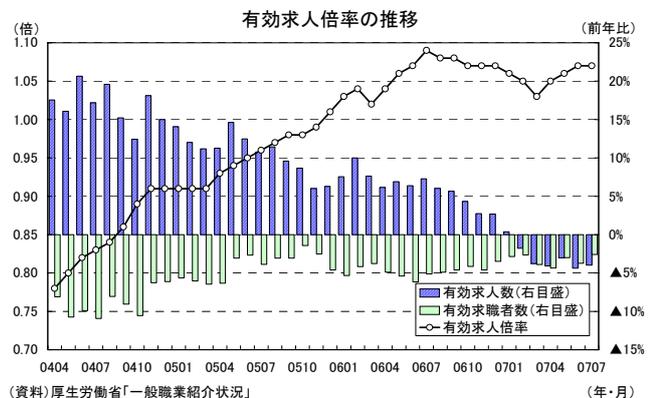
企業は、景気回復の長期化に伴う需要の拡大や、団塊世代の大量退職に備えるため、このところ新卒の採用を大きく増やしているが、新卒採用の多くは正社員であるため、若年層における非正規雇用比率の低下につながっていると考えられる。



3. 有効求人倍率は横ばい

厚生労働省が8月31日に公表した一般職業紹介状況によると、7月の有効求人倍率は前月から横ばいの1.07倍と、市場の事前予想通り(ロイター事前予想:1.07倍、当社予想も1.07倍)の結果となった。

有効求人数は前年比▲4.0%と6ヵ月連続で減少した。昨年夏以降の水増し求人に対する各地労働局による適正化推進の影響が引き続き残っている。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)